

## 植栽年間管理

美しい花壇の維持するために、いくつかのご案内いたします。

お引渡しさせていただいた植栽につきましては、さっそく灌水(水やり)や施肥、剪定など維持管理が必要となります。

つきましては下記の管理方法をご参考に、いつまでも美しい緑を育てていただきますようお願い申し上げます。

### 1. 水やり

植物を育てる中で水やりの管理が最も重要になります。

	春 3～5月	夏 6～9月	秋 10～11月	冬 12～2月
時間帯	～9時まで	～9時まで	～9時まで	日中
頻度	1～2回/週	毎日～4回/週	1～2回/週	1回/週
	西日が強い場所では多めに	西日が強い場所では多めに	西日が強い場所 残暑が厳しい時は多めに	夕方以降にやると霜焼けなどのおそれあり

水やりの仕方 ① 水やりは、ゆっくり花壇を何度か往復します。

② まんべんなく土の中にもいきわたるようにたっぷりとかけます。

**注意点** 急いで散水しても土の表面がわずかに湿る程度です。

10日以上雨が降らない時は季節にかかわらず水やりが必要です。

ツツジ類は根が浅いので乾燥による枯れが発生しやすいので注意が必要です。

日差しの弱い場所では加湿になりやすくなるので状況を確認してください。

上記に内容はあくまでも目安です。気象状況や環境により異なります。

## 2. 施肥

時期	12月～2月（寒肥）
	6月中旬～7月（追肥、花のあとのお礼肥）
回数	2回／年（最低1回は必要です）
種類	基本（普通化成肥料）
方法	ばらまき肥

多くやりすぎると肥料やけで根をいため枯れ死する場合がありますので注意が必要です。

## 3. 消毒

時期	春～夏	2～3回程度	4～5月	アブラムシ、ハマキ虫
			5～7月	9月 青虫、毛虫、コガネ虫
			6～7月	ハダニ、グンバイ虫
冬期	1回程度		12～1月	カイガラ虫

上記は一例です。  
その年により、多く発生する害虫の種類や時期など変化しますので注意が必要です。

## 4. 剪定

時期	11月～2月（冬期剪定）
	6～8月（夏期剪定）
回数	1～2回／年

落葉樹は落葉後、花木は花が咲き終わった後、草本類は冬眠期が目安です。

## 5. 除草

時期	1年を通して
回数	4～12回／年

雑草が小さいうちや雨後の土が湿っているときのほうが根ごと引き抜きやすいです。

# 植栽管理の手引き

植栽樹木のより良い成長を促すための管理手順や注意事項を説明していますが、植物は生き物で、気温、雨量などの気候により変化しますので必ずしも記載のとおりとは限りません。日頃、成長の観察などを行ない状況に応じた処置を行うことが大切になります。

## ツワブキ



### 水やり

表土が乾いたら十分に与えます。

### 肥料

4月から9月は月1回、草花用のチッ素、リン酸、カリが等量の配合肥料や、油かすと骨粉の配合肥料を施します。ただし、最初の新葉が成長している間は肥料を控えましょう。

### 病気と害虫

病気：うどんこ病、斑葉病、褐斑病

うどんこ病は5月から8月に発生し、葉の表面に白い粉をかけたようなカビが生えます。あまり重症化はしませんが、気になるようなら発生した葉を切り捨てて再生させます。斑葉病と褐斑病はどちらも灰白色の円い病斑ができ、斑葉病では病斑の縁が褐色、褐斑病では病斑の縁が暗褐色で、のちに黒い点が現れます。どちらもあまり大発生しませんが、気になるなら発生した葉を切り捨てて再生させます。

害虫：キクスイカミキリ（シンクイムシ）

成虫は小さなカミキリムシで、4月から7月に葉柄に卵を産みつけます。幼虫が地下の根茎に向かって葉柄の内側を食い進み、最後には根茎の内部を食いつくします。春から夏にかけて、元気な葉の中にしおれたものが交じっていたら、その葉を根元からねじ切って幼虫を取り除きます。念のため、葉柄を裂いて中に幼虫がいるか確認し、いなければ根茎に入り込まれた可能性が高いので、株を掘り上げて根茎を割り、中にいる幼虫を捕殺します。完全に防ぐ方法はなく、周囲にキク科の雑草を生やさないことである程度少なくできます。

## ヤブラン



### 水やり

地植えでは、ほとんど水やりの必要はありません。植えつけ後は、しっかりと根づくまで、土が乾いたら水やりします。

### 肥料

地植えではほとんど肥料は必要ありません。

### 病気と害虫

病気：ほとんど見られません。

害虫：ナメクジなど

ほとんど見られませんが、柔らかい新芽や蕾は、ナメクジなどの食害を受けることがあります。

## オリヅルラン



### 水やり

根が多肉質で乾燥に強い植物です。春から秋は鉢土の表面が乾いてきたら与え、冬は鉢土を乾かし気味に与えます。地植えの場合は、よほど晴天が続かないかぎり、水やりの必要はありません。

### 肥料

春から秋の生育期に緩効性化成肥料を2か月に1回、置き肥します。または速効性の液体肥料を1週間から10日に1回施すのもよい方法です。

### 病気と害虫

病気：炭そ病

高温多湿期に葉に発生します。発生を見たら早めに薬剤を散布します。

害虫：カイガラムシ

カイガラムシは年間を通して、葉や根に発生します。

## ケラマツツジ



### 水やり

根が細く、地表近くに張るため土壌の極端な乾燥に弱い性質です。鉢植え、地植えともに夏の高温期には乾かさないように注意し、朝または夕方に水やりをします。ほかの季節は乾いたら与えましょう。

### 肥料

鉢植え、地植えともに、花後の5月から6月と、株の充実する9月下旬、休眠期の1月に、緩効性化成肥料や固形の油かすを施します。

### 病気と害虫

病気：大きな被害を及ぼす病気はほとんどありません。

害虫：ハダニ、ツツジグンバイムシ、ベニモンアオリング、ハマキムシ

春や秋の乾燥する季節にハダニやツツジグンバイムシが発生します。最も大きな被害を及ぼすのはベニモンアオリングで、新芽や蕾の内部に侵入して食害します。

## シマオオタニワタリ



### 水やり

春から秋は乾いてきたら水を与え、冬は乾かし気味にします。葉水は年間を通してこまめに与えてください。

### 肥料

春から秋に2~3か月に1回、緩効性化成肥料を置き肥します。

## 病気と害虫

病気：炭そ病、軟腐病

春から秋に炭そ病や軟腐病が発生します。見つけたら、病気に侵された部分は除去します。

害虫：カイガラムシ、ハダニ、ナメクジ

年間を通してカイガラムシやハダニが発生します。見つけたら早めに防除します。ナメクジになめられると葉が変形するので注意します。

## ヒカンザクラ



水やり

落葉期を除き、乾燥が続くときは、2週間に1回程度、夏場は1週間に1回程度、朝のうち水やりを行います。

肥料

植えつけるときに、植え穴の底部に元肥として化成肥料を堆肥に混合して入れ、軽く覆土しておきます。晩秋から冬にかけて株の周囲に何か所か穴を掘り、有機質肥料と緩効性化成肥料を混合したものを寒肥として穴の中へ施します。肥料を地表にまくと、根系が地表に上がってくるので注意します。また、樹勢によっては花後に追肥をします。

病気と害虫

病気：てんぐ巣病

ソメイヨシノをはじめ、エドヒガン系のサクラに多発します。症状の現れた枝は深く切除します。使用した刃物はよく殺菌して、次の作業を行います。

害虫：モンクロシャチホコ、コスカシバの幼虫

モンクロシャチホコは葉を食害し、コスカシバの幼虫は幹などに入って食害します。葉を食害する昆虫は、集団が小さいうちに見つけて、捕殺します。コスカシバは、根元付近の除草を行い、幹から出ているヤニを見つければ駆除します。

## シャリンバイ



水やり

鉢植えや、地植えでも植えつけてから2年未満の株は、土の表面が乾いたらたっぷり水をやります。地植えで、植えつけて2年以上たつ株は特に水やりの必要はありません。

肥料

地植えは、2月ごろに寒肥（元肥）として有機質肥料を株元の周辺に埋めておきます。密植していて各株元に穴が掘れない場合は、葉が濡れていない時間帯に有機質肥料を株の上からまき、やさしくはたいて地面に落としておきます。鉢植えは、3月に化成肥料を株

元に追肥します。

#### 病気と害虫

病気：すす病

カイガラムシやアブラムシの排せつ物が引き起こす病気で、葉の表面が黒いすす状のカビに覆われます。

害虫：カイガラムシ、アブラムシ

数種類のカイガラムシの発生が見られます。排せつ物がすす病の発生要因となり、見た目が悪いだけでなく光合成を妨げますから、見つけしだい、竹べらなど樹皮を傷めないものでかき落とします。多くのカイガラムシは成虫になると足が退化して移動ができなくなりますが、ロウ質で体が覆われ薬剤が効きにくくなります。小さな幼虫の時期は移動はできますが、まだ体がロウ質に覆われていないため、薬剤の散布が有効です。

アブラムシは春から夏の成長期にかけて、枝先や蕾などに発生します。

### アマミヒイラギモチ



#### 水やり

地植えは、よほど乾く場合以外は水やりは必要ありませんが、鉢植えは、夏の水切れに注意します。

#### 肥料

寒肥として、堆肥と油かすなどを混合したものを、広がっている枝先の下あたり数か所に、穴を掘って施します。

#### 病気と害虫

病気：黒紋病、斑点病、すす病など

著しい被害はありませんが、葉に黒い点が現れる黒紋病や斑点病が発生することがあります。また、吸汁性昆虫の排せつ物によるすす病も発生します。

害虫：カイガラムシ類（ルビーロウムシ、ツノロウムシ）、ハダニ類など

カイガラムシ類は枝や幹に、ハダニ類は葉裏に発生し、いずれも樹液を吸って被害を与えます。



### クワズイモ

#### 水やり

クワズイモが生長している間は土の表面が乾燥したら、鉢底から水が流れ出る位たっぷりと水やりをするようにします。気温、湿度ともに高い時期は腰水で管理してもよいです。クワズイモを腰水で管理する場合は風通しの良い場所に置いて蒸れないように気を付けましょう。

気温が低い冬など、クワズイモの生長が止まったら水やりを控え、一週間に1~2回程度

水やりをするようにしましょう。

また、葉水を定期的に行うことでハダニなどの発生を予防することができます。葉水をする時はクワズイモの葉裏にもしっかりと水をかけましょう。

#### 肥料

クワズイモは冬場の生長が緩慢になるときに肥料を与えてしまうと肥料焼けをする可能性があるため、春～秋の生長期に与えるようにします。

クワズイモに肥料を施す場合は適切な濃度に希釈した液肥を10日に1回与えるか、緩効性の置き肥を与えてください。有機肥料ではなく、化成肥料を使うことでコバエの発生を予防することができます。

#### 病害虫

クワズイモはハダニ、アブラムシ、カイガラムシ、に注意しましょう。特に屋外では害虫の被害に遭いやすいのでよく観察することが大切です。暖かくなりはじめた春頃と夏の終わりに薬剤を散布すると病害虫の被害が少なくなります。



### ソテツ

#### 水やり

ソテツ（蘇鉄）は乾燥に強いので地植えではほとんど水やりの必要はありません。鉢植えの場合も土が完全に乾いて、鉢が少し軽くなって水やりをします。冬場の水のやり過ぎに注意しましょう。

#### 肥料

地植えのソテツ（蘇鉄）は施肥の必要はほとんどありません。

#### 病害虫

ソテツ（蘇鉄）は殆ど病害虫の被害は見られませんが、熱帯アジアに分布しているクロマダラソテツシジミが新芽に産卵し、その幼虫がソテツ（蘇鉄）の新芽を食害する事があります。

熱帯の地域にしか分布していなかったクロマダラソテツシジミですが、最近では分布の地域が広がり関東でもその被害が確認されています。



### ガジュマル

#### 水やり

乾燥に強く、普段の水やりはほとんどいりません。

#### 肥料

2～3年に1度、緩効性固形肥料を冬場に適宜与えてください。

#### 病害虫

ハダニ



黄緑や赤い体色をした 0.5mm ほどの小さな害虫です。葉の裏側に潜み吸汁します。ハダニに吸汁された箇所は白い斑点状になるのですぐ分かります。そのまま放置しておくと最悪の場合枯れてしまいます。

また、ハダニは薬剤耐性が付きやすく 1 度の薬剤散布で完全に駆除する必要があります。

#### アブラムシ

アブラムシは 2~4mm ほどの小さな害虫です。幼虫、成虫ともに葉や蕾を吸汁します。群生していることが多く、早めに対処しないと手遅れになる場合があります。

アブラムシはスズ病などのウイルス病の媒介者で、吸汁されてしまうとそこからウイルスがガジュマルの中に侵入し、病気を発症させます。また、発症しなくても吸汁されたことで体力がなくなり、そのまま枯れてしまう場合があります。見つけ次第ピンセットやティッシュなどで捕殺してください。

#### カイガラムシ

3mm ほどの小さな虫で、白い綿毛のようなものを背負っています。吸汁して生長していくと、身体からワックスなどを分泌し、身体を守ろうとします。カイガラムシに吸汁されると株が弱ってしまい、そのまま枯れてしまうことがあります。

ワックスで身体を覆ったカイガラムシは非常に厄介で、殺虫剤が効かないことがあります。そのため、歯ブラシやピンセット、爪楊枝などを使って地道に一匹ずつ捕殺する必要があります。

ガジュマルの場合は根と根の間や枝に群がりやすいので、定期的に確認することをおすすめします。



#### ゴモジュ

##### 水やり

適湿な場所を好みます。冬場は 10 日以上乾燥が続いたときに与えてください。

##### 肥料

寒肥のほか、花後にお礼肥として 3 成分等量の緩効性化成肥料を施します。

##### 病虫害

乾燥気味になるとハダニが付くことがあります。

#### ゲットウ

##### 水やり

鉢植えのゲットウは、乾燥したり陽射しが強かったり土の表面が乾燥したら水を与えます。水を必要以上に与えると根腐れしやすく、枯れやすいです。葉が乾燥した場合は、霧吹きを使って水を吹きかけると元通りになります。

##### 肥料

4 月から 10 月頃まではゲットウの生育期間なので、追肥は緩効性の化成肥料を 2 月に 1 回位の割合で施肥します。もし、液肥を与える場合は、2 週間前後に 1 回の割合で施肥し

ます。

#### 病害虫

ゲットウの葉には殺菌効果と防虫効果が期待されているので、病害虫の心配はいらないですが、コバエなどが発生している場合は用土に原因がある場合があります。

#### タマリユウ



#### 水やり

地植えでは、ほとんど必要ありません。植えつけ後、しっかりと根づくまでは、土が乾いたら水やりします。

鉢植えでは、用土が乾いたらたっぷりと水を与えます。かなりの乾燥に耐えますが、春の新葉の出るところと発蕾中は、乾燥させないほうが美しく育ちます。

#### 肥料

地植えでは、ほとんど必要ありません。

鉢植えでは、春と秋に緩効性肥料を置き肥します。極端に肥料切れすると、葉色が悪くなり、新葉の数も減り、花も咲かなくなります。

#### 病気と害虫

病気：ほとんど見られません。

害虫：ナメクジなど

柔らかい新芽や蕾が、ナメクジなどの食害を受けることがあります。